

# 平成22年度 東京都立武蔵丘高等学校経営報告

平成23年3月31日

校長

## 1. めざす学校の姿

①本校は、平成22年度、「めざす学校の姿」として以下を掲げ、その思いを「友との絆」「利他の志」「大学進学への道」というキャッチフレーズに込めた。

- ・自ら学びに向かう習慣を身につけ、学力の向上と進路目標の達成とにチャレンジする中堅上位の進学校。
- ・キャリア教育を通して人としての在り方と生き方を模索し、利他の志を磨くまなびや。
- ・部活動や特別活動に力を注ぎ、高い向上心と仲間とのきずなを培うコミュニティ。
- ・教職員がこの生徒への愛情は誰にも負けないという気概をもち、力を合わせて生徒を支え導く学校。

②その上に、以下のような生徒の育成に努めることを目指した。

地球のため、社会のため、人のために貢献しようとする利他の志をもち

正義感と問題意識にあふれ

将来の進路を見つめ、日々学び、自らを磨き続け

富士山のように人としてバランスのとれた活性を培い

仲間と強く深い絆で結ばれた若者を育てる。

## 2. 今年度の取組方針と目標、成果と課題

「学力向上開拓推進校」「部活動推進指定校」の同時指定を受け、両事業を進めて教育の質的な充実に努めた。その中で、今後の本校の未来像を構想して重点支援校に応募し、23～25年度の指定を受けることができた。さらに、生徒がもつ多様な資質能力や豊かな感性を開発して全人的な成長を図り、予備校に頼ることなく国公立やMARCHレベル以上の大学への進学を目指す要となる隔週土曜授業の実施、新教育課程の編成にこぎつけた。

今後も、企画調整会議と主幹会議（カリ検）が牽引車となり、諸課題の発見とその解決に努めながら教育活動として具現化し、生徒の資質能力のさらなる向上に全力投球することが今後の課題である。

### 【学習指導】（基本的な取組方針と数値目標は以下のとおり）

(1)「学力向上推進指定校」として、生徒の学力向上に力を尽くす。生徒の学力を捉え、指導の内容と方法の両面から入念な準備を行い、教科の特性を活かしたキャリア教育と自学自習の習慣化とを踏まえながら、個に合った指導を進める。

2)新学習指導要領の趣旨を捉え、本校の生徒の特性に対応し、学校がもつ教育機能を十二分に発揮することを基本に据え、新しい教育課程を編成する。

【数値目標】【自学自習事業】3回以上、【自学時間】1年：1時間50%、2時間以上25%、2年：2時間40%  
3時間以上15%、【土曜日講習】10講座以上、【長期休業中補習】56講座以上（夏30、冬20、春6）  
【相互授業参観】120回、【生徒の学習指導満足度】肯定的な評価70%以上

【英語検定】2級3、準2級25名

### ＜主な成果＞

- ①「学力向上開拓推進校」として、高校入試の答案、2度実施した学力診断テストから生徒の学力データの収集・分析、推進プランの作成と推進を図ることができた。
- ②センター入試の比較考量にも着手し、推進校として他校に先駆け取組みを重ね、経験を蓄積して提供できた。
- ③人として幅広い活性を磨き、国公立大や私立大上中位校に合格を目指す24年度以降の教育課程を策定できた。国・英を増加単位した23年度教育課程を策定できた。
- ④企画調整会議を核に、土曜授業の実施にこぎつけることができた。
- ⑤自学自習ガイダンスを4回、定着週間を年度当初と終わりに各1回開催し、自学自習の習慣化が前進した。2・3年は、4月当初と比べて自学自習時間が急速に伸び、1年は一時低下したが、年度末には回復を果たせた。  
1年：1時間4月29%→2月32%、2時間9%→13%、3時間以上5%→5%、0分21%→16%  
2年：1時間4月29%→2月24%、2時間4%→16%、3時間以上1%→7%、0分40%→15%

- ⑥「いい授業創造プロジェクト」でのOJT・相互の授業参観を計 132 回、授業改善研究誌「恋文、そして挑戦状」を刊行し、生徒の学習意欲の向上、生徒募集に効果を生んだ。
- ⑦初めて取り入れた朝学習を年間を通じて実施できた。
- ⑧習熟度別授業を3年生での英語、全学年での数学に拡充できた。
- ⑨補習補講の取組みがさらに充実した。土曜講習は 10 講座。夏季休業中講座 31 講座（昨年度 26 講座）。夏季休業中の毎週 2 回英語検定講習。夏の講習参加者が倍増し 1,970 名（昨年 914 名）。冬季休業中講習 18 講座（昨年 17。国2、数3、理2、地歴2、英検各級9を開講）春季休業中講習を1・2年英語で開講（昨年度は2年のみ）、サテライト講座 62 名受講。1 年は定期考査前に土曜特訓を実施。
- ⑩授業や補講の充実を反映し、英検 2 級 5 名（昨年 1）、準 2 級 44 名（同 22）が合格した。

#### <次年度の主な課題>

- ①「学力向上開拓推進校」の原点を確認し、学力診断テストや模擬試験の結果等から、生徒の学力の到達度や特性、その成長の軌跡等を分析して生徒にフィードバックし、学習意欲の向上につなげる。
- ②学力分析対象教科を拡充するとともに、分析結果をさらに反映させた学力向上推進プランを作成する。分析等が円滑に進む合理的な方法の開発、体制の整備を図る。
- ③隔週土曜授業の実施上の効果や課題等を総合的に検討・評価し、次の改善に生かす。24 年度からの新教育課程の細部を 5 月中旬を目途に詰め、生徒募集等にも活用する。
- ④学力向上のために進めてきた朝学習や自学自習ガイダンスおよび同定着週間等の諸事業の成果と課題を捉えて解決に努め、常に有効な取組みが展開できるように工夫し、定着に努める。
- ⑤学習ゾーンの設定は 1 年間猶予し、部活動と学習との両立のあり方を、全教員・全顧問が模索し、経験を交流・記録しつつ進める。「勉強ガンバル部」を立ち上げる。
- ⑥「総合委員会」を核にキャリア教育を推進し、学ぶ意欲を一層高めることが重要である。

#### 【進路指導】

- (1)進路指導部が主導し、各学年や分掌と協力して組織的で系統的な進路指導を早期から展開し、生徒のより高い目標達成を支え導き、中堅上位の進学校をめざす。創意を發揮してキャリア教育の総合計画を立案し、全校をあげて 1 年次から系統的に行う。

《数値目標》主要大学等現役合格 100 名、専門学校、就職希望 100% 実現、進路意識啓発事業 10 回

#### <主な成果>

- ①長年の課題であった進路指導部を中核とする進路指導体制を構築できた。
- ②進路実現に効果的な新教育課程の編成および現行 3 年次の選択授業の充実を図れた。また履修指導の徹底を図った結果、選択受講者が約 1.3 倍に増加した。
- ③MARCHレベルの大学に現役合格 19 名、主要大学に現役合格 95 名。
- ④キャリア教育PTを立ち上げ、総合的な学習及び奉仕の内容と時間配分等を見直した。
- ⑤3学期を新3年「0学期」と位置づけ、自学自習の定着に学年が先頭に立って取組んだ。

#### <次年度の主な課題>

- ①進路指導部を中核とする進路指導体制を確立し、定着させる。
- ②総合委員会でキャリア教育を含む総合的な学習の時間のテキストを完成させ、計画的に進路意識を高める。
- ③3年生への受験指導、2年生への履修指導の徹底を図り、全校的な対応で進路実現に努める。

#### 【部活動・特別活動】

- (1)年度の指導目標と計画をキャリア教育の視点も踏まえて立案し、「委任して主宰する」ことを基本に、自主自律的な活動を称揚し、試行錯誤するプロセスと達成感を大切にしながら励まして成功に導き、均整のとれた活性を育む。

《数値目標》【部活動】加入率 97%、前年度より取組実績を高めた部活動 10 部、地域貢献事業 4 回、都大会レベル 16 位以内 5 部 【特別活動】学校行事満足度 70%

## <主な成果>

- ①部活動の東京都16位以内（相当も含む）は延べ6部。  
女子硬式テニス都立高校戦シングル優勝、ダブルス3位、団体優勝、水泳個人メドレー6位、ソフトテニス国公立戦団体5位、ソフトボール16位
- ②部活動推進指定校となったことを踏まえ、保健体育科が推進役となり新体カテストを初めて実施した。同趣旨から、各部の部長で構成する「クラブ協議会」が、部活動報告書をリニューアルして発行した。
- ③1年生全員の部活動加入を継続できた。ダンス部とクッキング部が階級に昇格。陸上部の部員数が増加し、夏合宿を実施できた。
- ④演劇部・ダンス部が外部の競技会に初参加し、演劇部は地区の奨励賞を初受賞した。
- ⑤吹奏楽部、茶道部、生徒会執行部が、地域貢献活動に協力した。とくに吹奏楽部は中野町会連合会主催の国際交流大演奏会や地域のジャズ祭に出演し、顕著な貢献を果たした。
- ⑥硬式野球部に加えてダンス部が校内清掃に取り組み、また降雪時には自主的に多くの部活動が協力して早朝から校内や周辺道路をラッセルする姿が見られるようになった。
- ⑦自律経営推進予算に加えて、部活動推進指定校予算、重点配布予算、生徒会予算を一本化し、部活動の活性化に資する予算の枠組みを整えられた。
- ⑧外部指導員の体制を強化し、吹奏楽部やバレーボール部の指導の充実を図れた。
- ⑨文化スポーツ等特別推薦を、支援センターの協力を得て円滑に進めることができた。
- ⑩技術的な指導ができる教員を吹奏楽部、硬式野球部、サッカー部、バドミントン部、陸上部、ダンス部、茶道部等で補強することができた。
- ⑪文化祭・英語暗誦大会・合唱祭の運営改善が顕著であった。生徒の満足度は文化祭 73%、体育祭 71%と合わせて高かった。

## <次年度の主な課題>

- ①前年度に比して活躍が著しい部活動を特別に表彰する校内独自の制度を開設し、部活動の活性化に生かす。
- ②クラブ協議会等の機能を生かして、部活動の成果をリアルタイムに把握し、全校に広報する体制を構築する。
- ③自律経営推進予算、重点配付予算、推進校予算、生徒会予算等を一本化し、部員数の増加が著しい吹奏楽部の楽器、硬式野球部のネット、ダンス部の鏡、テニスコート照明用電源の確保等を軸に部活動の支援に努める。
- ④外部指導員については、必要な部活動に必要な対応が図れるように調整する。
- ⑤文化スポーツ等特別推薦に対応した広報・生徒募集活動の強化をさらに図る。
- ⑥各部の円滑な活動が展開できるよう、人材の育成や確保に努める。
- ⑦学校行事では、生徒に委任して教師が主宰する在り方を徹底し、引き続き運営の改善と企画の充実に努める。特に体育祭の運営の更なる改善を期したい。

### 【生活指導・保健指導】

- (1)「品格と規律ある自由」をめざし、キャリア教育の視点も踏まえて全教職員が目標を共有し、「誉めて認めて励ます」「言って聞かせて待つ」指導を組織的に行う。
- (2)「安全、安心、心身の健康」を基本に据え、保健部を核に教職員間の連携を密にし、専門家や関係機関とも連携し、組織的で迅速な対応を図る。また、環境の整備を心身の健康および学習意欲を支える重要事項と位置づけて全校で取り組む。

《数値目標》【生活指導】遅刻者クラス1日当たり1年、2年1名以内、3年2名以内、頭髪指導者年度末に0名

【保健指導】心身の健康づくりの取組2回

## <主な成果>

- ①「生活の心得」の趣旨を徹底し、品格と規律ある自由を基本に据えた、「誉めて認めて励ます」「言って聞かせて待つ」指導が浸透し、「落ち着いた校風」との評価が学校運営連絡協議会や地域等で高まっている。
- ②生活指導部が核となり、生活指導の重点5項目を設定し、指導の充実に主体的に努めてきたことが、生活指導の充実の鍵となっている。

③遅刻指導、頭髪指導が定着し、1・2年でとくに著しい改善が図れた。

遅刻者1年0.68人/1クラス、2年1.4人、3年3.3人。

④新標準服の着用基準を確定することができた（儀式・校外行事では必ず着用）。

⑤教育相談センターと連携してカウンセラー派遣を要請し、教育相談を有効に活用する取組みが前進した。

⑥「美化マニュアル」を作成してその徹底に努め、「毎日掃除する学校」に向けて前進できた。「第1回お掃除大賞」（金のチリトリを授与）など工夫に富む対応がとられた。

### ＜次年度の主な課題＞

①「品格と規律ある自由」の精神を、様々な取組みを通して生徒に浸透させることが最大の課題である。

②生活指導はいつでもどこでも誰でもが取り組むべき課題である。全教職員が、課題の発見に努めて共有化を図り、組織的に解決を図る。

③遅刻指導は8時25分登校を徹底する。3年生は登校時間が曜日毎で異なっても生活規律を維持する。

④「生活の心得」に基づく指導、自転車登校の安全マナー遵守指導の充実を図る必要がある。

⑤美化マニュアルのリニューアルを図り、「毎日掃除する学校」「清潔で整理整頓が行き届いた学校」づくりに向け、全校を挙げて取り組む体制と体質づくりに努める。

⑥スクールカウンセラーの配置を活かし、生徒のメンタルケア体制の整備が課題である。

### 【広報・生徒募集活動】

(1)今年度も最大の重点課題のひとつと位置づける。生徒の学習ニーズに応じて教育活動の一層の活性化を図り、その稔りを広報し、生徒募集につなげる。

《数値目標》中学生第一希望調査1.2倍以上、中学校・塾の訪問回数200回

中学校での説明会・出張授業等への講師派遣15回、学校説明会参加者数2500名

### ＜主な成果＞

①新規HPの開設、旺盛でアイデアに富んだ広報・生徒募集活動を全校で推進し、昨年の高倍率を超える成果を得て、本校を第一志望とする中学生が男女とも大幅に増え、教師と生徒の勇気と自信が高まった。

中進対 男1.4倍（22年度1.20）、女1.7（22年度1.61）

推薦 男4.4倍（22年度3.48、21年度2.10）、女4.8（22年度5.65、21年度2.62）

学力検査 男1.7倍（22年度1.58、21年度1.28）、女2.0（22年度1.93、21年度1.30）

②同窓会の支援で、新しいWebサイトと新パンフレットが完成し、各校から好評価を得た。

③「恋文、そして挑戦状」第2弾が、中学生と保護者、塾の関係者から高い評価を得た。

④男子生徒の募集においても、学力向上や大学受験対応の教育課程の工夫、文化スポーツ等特別推薦の導入が奏功し、効果的な展開を図ることができた。その他、種々の取組みの成果は以下の通り。

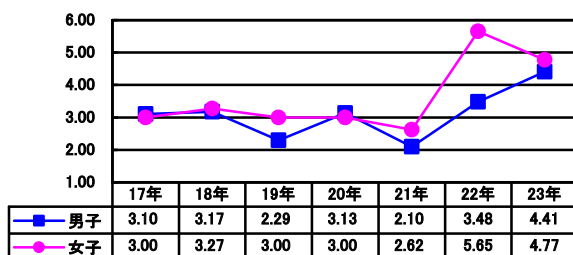
【新HPへのアクセス】 10ヶ月で15万8千件

【学校説明会参加者】 第1：482名 第2：486名 第3：530名、第4：178

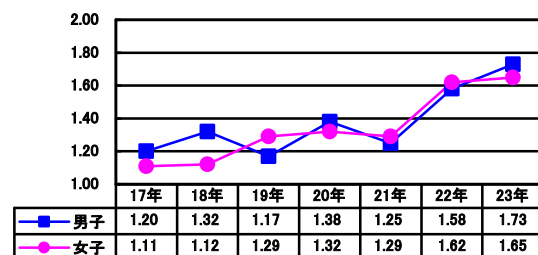
【体験授業・部活動体験】 第1：100名（6/26） 第2：204名（7/27）、第3：110名（10/9）

【部活動体験】2回、【文化祭の来場者】2,045名（うち中学生が620名、全年度の1.4倍増）

【教員の中学校訪問】170校、【説明会・授業体験参加者総数】3,748名（22年度2,419、21年度1,849）



推薦に基づく選抜の倍率の推移



学力検査に基づく選抜の実質倍率の推移

### ＜次年度の主な課題＞

- ①期待して入学した生徒に 대응して、教育活動の充実を図ることが何よりも大事である。
- ②特に、本校を目指す生徒の学力面での向上を期し、新教育課程を広報して生徒募集に努める。
- ③今年度の成果に甘んじることなく、教育活動の一層の充実に努めるとともに、広報・生徒募集活動の強化を図り、次年度以降も、本校を第一志望とする、学ぶ意欲と学力の高い生徒の獲得に最大限の力を注ぐ。

### 【創立 70 周年行事、学校経営や組織体制など】

- (1) 創立 70 周年にあたり、記念行事を全校・同窓会・武蔵会をあげて挙行し、成長する本校の姿を学校内外に示す。
- (2) 経営計画を軸に各組織と各教員が目標を共有し、協力体制を固め、創意工夫を発揮して、教育活動の一層の充実に取り組む。

### ＜主な成果＞

- ① 全人教育と学力向上および進路実現を図る構想で重点支援校に応募し指定を受けることができた。また、主幹・主任の協力で、画期的な新しい教育課程を円滑に策定することができた。
- ② 企画調整会議構成員の実質化が前進し団結力も一層強固になった。主幹会議・企画調整会議が、学校運営に係る諸問題の解決に向けた検討、意見集約、調整の場として本来の機能を発揮しつつある。
- ③ 同窓会とPTAとの協力を得て、全校を挙げて70周年の諸事業を成功裡に進めることができた。
- ④ 経営計画を実現する中間総括、次年度の経営計画素案の策定、各教科・分掌の総括と組織方針と予算案づくり、最終総括と次年度への書面による引継ぎの実施など、組織的なPDCAサイクルの徹底が前進した。
- ⑤ 自律経営推進予算の本来の趣旨を生かし、経営計画実現に資する効率的な予算を策定し適正に執行できた。
- ⑥ 委員会、教科代表、初任研、2・3年次研修の指導教員に主任教諭が当たり、取組みの充実を図れた。
- ⑦ 学校運営連絡協議会での学校評価で、「学校がよくなったか」という設問に「そう思う」8名、「ややそう思う」1名の評価を得た。

### ＜次年度の主な課題＞

- ① 教職員相互の情報の共有化を図り、さらに風通しの良い連帯感のある学校運営を実現する。とくに、企画調整会議の機能を活かし、検討内容等を各分掌や学年に浸透させることが重要である。
- ② PDCA サイクルをさらに徹底する中から自校の課題を発見し、ミドルアップ・ボトムアップによる価値ある解決策が、フローに乗るように調整を図り組織力を高める。

### 3. 学校運営連絡協議会等での評価など

- ① 地域の保護者、塾関係者から武蔵丘高校の評価は日増しに高まっている。特に塾において「武蔵丘は一押し为学校」との声が聞かれたとの情報提供があった。
- ② 引き続き、より良き結果を求めて進路指導の充実に努め、MARCHレベル以上の大学合格者を増やしてほしい。
- ③ アンケートの結果（今年度の教育活動の取組で、「学校がよくなった」と考えますか）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
8	1	0	0	0	0

以上